

## 普及活動情勢報告（令和2年3月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

### 集落営農法人の事例を学ぶ ～令和元年度第2回南国市集落営農塾～



3月2日、集落営農志向者やほ場整備委員等を対象に、南国市内の集落営農法人である「株ながおか」を視察する「南国市集落営農塾」を開催し、関係機関を含めて13名が参加しました。農業改良普及課は、視察先の選定や資料作成、参加呼びかけ等を行いました。

代表者から、経営内容や運営のポイント、ほ場整備と集落営農の関係性等の説明があり、参加者からは労働力確保や補助金の利用、作付計画など、様々な質問が積極的に出され、有意義な内容となりました。

今後、意向アンケートで前向きな方を中心に関係機関と面談等を行い、集落の将来を考えるための話し合いへつなげていきます。

### JA高知県香美地区露地みかん部会が現地研修会を開催



JA香美地区露地みかん部会は2～3月に香南市内の4支部で現地研修会を開催し、生産者74名が参加しました。

ほ場でのせん定講習の後、座学を行い、農業改良普及課から急増しているカイガラムシ類対策や他地区のスマート農業の取組について紹介しました。

生産者からは、「防除適期の判断が難しい」、「ドローンだけでなくアシストスーツの情報も知りたい」等の声があり、関心の高さが感じられました。

農業改良普及課では、産地の維持に向け、基本管理技術の徹底から省力化技術の普及までの総合的な支援を行っていきます。

### JA高知県南国市シシトウ合同役員会の開催



2月21日、JA高知県南国市シシトウ4部会が合同役員会を開催し、生産者7名、関係機関16名が参加しました。

農業改良普及課から、これまでの南国市シシトウの生産量、販売額、栽培面積等のデータを示しながら、今後の産地の維持、拡大のためにどうすべきか参加者からの意見を求めました。生産者からは「高知県のシシトウのシェアは守っていくべき」「パック詰め作業者の問題を早急に解決すべき」「新規担い手への支援体制の充実」等の意見が出されました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、課題解決に取り組み、産地の維持・強化を目指して支援していきます。

### 南国市内新規就農者のフォローアップを実施



3月11日、新規就農者（3年目）の経営状況を確認するため、南国市担い手育成総合支援協議会のメンバーで現地巡回を実施しました。

当日は、事前に提出された状況報告書をもとに、ほ場の状況確認や農業経営上の課題、解決策などについて情報提供を行いました。

「経営管理について、基本的なところから学ぶ機会がなかった」との声もあったことから、普及課では関係機関と協力しながら課題解決を支援し、新規就農者の早期の経営安定を図っていきます。

### 品質向上と市場事故ゼロを目指して！ ～JA高知県南国市大葉部会が勉強会を開催～



2月26日、JA高知県南国市大葉部会の勉強会が開催され、22名が出席しました。農業改良普及課からはミナミキイロアザミウマ対策で取り組んでいる防除試験や、農薬や異物混入の事故対策について情報提供しました。参加者からは「4～5月の害虫の密度を下げることで、6～7月の被害を少なくできる」「他産地に負けないよう、ガイドライン準拠 GAP に取り組んでいこう」などの声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も病虫害防除や GAP の取組への支援を継続していきます。

### JA高知県長岡ピーマン部会が現地検討会を開催！



2月27日、JA高知県長岡ピーマン部会が現地検討会を開催し、生産者9名が参加しました。

農業改良普及課は、生産者に目標収量を意識してもらうため、主枝本数や節数、節ごとの着果数など、ピーマンの収量構成要素となる項目と収量との関連について説明しました。

生産者は「400坪に1200株植えて、4本仕立てをやったら...」「うちの主枝本数は3.9本/m<sup>2</sup>やった」など、各ほ場で主枝本数を計算しながら栽培状況と比較・検討していました。

農業改良普及課では、今後も現地検討会や栽培講習会等により生産者の技術向上を図っていきます。